

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（3月分）

留学先大学：貿易大学

氏名：小泉春樹

3月は、はじまりの月だったように思う。

なかなか物事が思うように進まないもどかしさを、少し突き破れたひと月であった。

授業についてだが、これは芳しくない。

自分1人と、ベトナム人9人でのグループワーク。すごく気を使ってしまう。やりずらい感が、お互いの中に流れているように感じる。例えば、授業中に軽いグループディスカッションがあるのだが、この時グループ内ではベトナム語が多く飛び交うこととなる。福井大学でも同じであろう。留学生がいる授業のグループワークは、そのグループにいる日本人が増えれば増えるほど、個人間の日本語での会話が増えることとなるのだ。そんな時、留学生はついていけなくなる。と同時に、申し訳なさを感じる。そんなところから始まり、他のことも重なって、だんだん授業に行きづらくなった。そして、休むことが増えた。そのせいでまた余計に行きづらくなり、気づけば、負の連鎖が微動だにしない重しのように心にのしかかっていた。クォーター制のため、取っていた授業は3月いっぱい終わった。ただただ頑張り切れなかったことを痛感する。

そして、人間関係。というか、友達づくり。結果から先に言うと、ベトナム人の友達がたくさんできた。いや、10人ほどか。それでも、来越時一人ぼっちだったことを考えれば10人をたくさんといってもいいだろう。とてもとても温かな繋がりなのである。

この繋がりができたきっかけは、日本語センター（日本語学校）の開いている週末イベントに参加したことだった。

ベトナムで日本語を勉強している学生の多くは、日本人と実際に会話をする機会がとても少ないため、日本語センターでは、ベトナム人の生徒さんたちと日本人が交流をする機会を作っているのだという。これにはだれでも参加してよいらしく、気軽に、Facebook等で「参加したいです」と伝えればそれでいいようだった。

このイベントでできたベトナムの友達たちと、ご飯に行ったり遊びに行ったり、そして友達がその友達も連れてきてくれて…という風に数珠つなぎに繋がりが広がり始めた。

先の報告書でも触れたとは思いますが、ベトナムに留学に来た一番の目的は、国際協力という国際社会貢献の最前線の現場で経験を積むことだ。それに対してどうアプローチをかけていいか分からなかったが、インターネットやSNSで検索をかけ、この3月から見つかった団体や個人に手あたり次第メールを送ることが始まった。すると、複数の返信が来た。

“下手の鉄砲数撃ちゃ当たる”精神は、功を奏した。そこから、ベトナムにいる方とは直接会い、食事しながら色々なことを教わったり、日本に本部がある団体の方とはSkypeを通してお話ししたりと、確実に前進していることを感じた。

そのうちの一つのBAJ (Bridge Asia Japan)という団体を通じて、ベトナムの自作農業保護と、環境保全の活動にこれから関わらせていただくことになった。

深く深く関われるかはまだわからないので、引き続き他の団体にもコンタクトをとっていこうと思う。